（１）下田小学校

学　　校　　長　柴田　満嗣
校内研究代表者　浅尾　優加

１．研究主題

「自ら課題を追求し、主体的に学ぶ子どもの育成」
～伝え合い、学び合い、深め合う算数科の授業づくりを通して～

２．主題設定の理由

本校は、「かしこく、やさしく、たくましい児童の育成」を学校教育目標に、「自分で考え行動できる子」「友だちにやさしく大切にできる子」「たくましさのある子」を目指す子ども像に掲げている。学力だけでなく、生きていく知恵ややさしい気持ちを持って人と接することができる子ども、自分で考え行動できる自立した子どもの育成に努めている。また、地域の方をはじめ様々な人との出会いにより視野を広げる体験学習を重視した取り組みを通してコミュニケーション能力の育成を図ってきた。

本校の児童は、じっくり話を聞くこと、丁寧な作業をすることなど、粘り強く取り組む力に課題が見られる。また、適切に言葉を使って、自分の思いを相手に伝えることを苦手とする児童も少なくない。そのために、意思の疎通がうまくいかず、友だち関係に悩む姿も見られる。

授業では、下田小スタンダードに基づいた授業展開をしていくことに加え、「めあて・まとめの連動性」「個人思考を確かなものに」「深い関わり合い」「的確な振り返り」を共通理解し取り組んできた。また、授業研究の事前研究では指導案の検討を行い、事後研では西部教育事務所から講師を招聘しＫ・Ｊ法を活用して課題に迫る協議を行ってきた。そのため授業では、一定の統一性を持つことができた。

しかし、各種学力調査の結果から、特に算数科において、学年を問わず共通して「記述式」や「数学的思考」、「図形」に課題が見られた。また、「数量関係」や「数量や図形についての知識・理解、技能」でも課題が見られる学年が多い。

このような実態から、基礎・基本の定着を重視するとともに、図形の性質や成り立ち、考え方を文章や図に活用していたり数直線に表したりするなど、数学的な考え方を伸ばしていくことを全体で共有した。

そして、日々の授業づくりにおいては指導事項を明確にし、自力解決や振り返りの時間を大切にしながら、伝え合い、学び合い、深め合う算数科の授業づくりをめざしていきたいと考え、研究主題を「自ら課題を追究し、主体的に学ぶ子どもの育成」と設定した。

３．研究の進め方と方法

（１）研究組織

・全体会（校内研究・職員会）
・研究推進委員会及び企画委員会・・・第１月曜日（校長・教頭・教務主任・研究主任・事務）
・ブロック・・・必要時
・部会・・・必要時
　　学習部会（柴田・浅尾・八十島・濵口・松本）
　　集団づくり部会（小川、東、上本、西村、河上）

（２）授業研究

・算数科の授業研究を４本行う。

・道徳の授業研究を２本行う。

・事前研では、ブロックで指導案検討や模擬授業を行う。

・事後研では、４つの視点にそって KJ 法でよかった点、課題や改善点を出し合い課題解決に迫り、次の授業に生かしていく。

・参観者は、授業後に授業参観者カードを記入する。

（３）水曜日午後の活用の仕方（14：50～16：30）

・第 2 週・・・職員会、生活指導研究・発表朝会の反省

・第 1.3.4 週・・・研究主題に関わる研究

運営・・・司会者、記録者は席順で順番制とする。

推進・・・企画委員会が前回までの経過に基づいて研究の方法を提示する。

４．研究主題具現化の視点

（１）授業改善への取組

・見方・考え方を働かせた授業づくりの推進

・子どもの考えを引き出すための導入の工夫

・子どもの考えを「つなぐ」「広げる」「もどす」ことを意識した「学び合い」を取り入れた授業づくり

（２）基礎基本の定着

・下田小スタンダード、授業改善プランを徹底する。

・指導事項の確認

・学習計画を提示（見通しを持たせる）

・帯タイムを活用し、「読み、書き、計算」の反復練習をする。

（３）伝え合う力をつけるため

・ 発表朝会

・ 班学習、ペア学習等で関わり合う授業作り

・ 言語活動を取り入れた授業の展開

・ 話し方（聞かせること）の工夫

・ 情報活用能力をつけるための活動の工夫

（４）語彙をふやすため

・ 辞書の活用（全校一人一冊）　辞書引き大会の実施

・ 並行読書の吟味や課題図書の推進

・ 読む活動の工夫と積み重ね（音読等）

（５）書く力をつけるため

- 感想文・行事作文を計画的に実施
- 要点をまとめる活動の場を設定
- グッドノート賞（自主学習）
- 授業の中で頻度を高める（自力解決・振り返りなど）
- 視写の継続
- ＮＩＥの推進（新聞投稿、はがき新聞・学校新聞作り等）

５．今年度の成果と課題

【成果】

・外部講師を招聘した研究授業（算数、道徳、複式授業）を行い、新しい授業づくりについて学ぶことができた。

・教材研究や模擬授業をブロックごとに行い、事前研（指導案検討）は全教員で行うことができた。先生方が同じ視点を持って参観できたので、事後研でポイントを絞って協議することができた。

・見通しを持ち、「自力解決」や「学び合い」を大切にした授業づくりを推進することができた。

・帯タイムでは、算数は基礎的な計算、国語は漢字やローマ字の定着に向けて取り組んだ。また、辞書引きや視写等も行い、語彙の習得に取り組むことができた。

・発表朝会を全学年、学期に１回ずつ（年間３回）行い、学習の発表の場の確保と伝え合う力の育成につなげることができた。

・毎月、自主学習の中からグッドノート賞を選出し、工夫したノート作りに取り組めた。

・全校で NIE に取り組み始め、新聞を通して社会の出来事に関心を持ったり、楽しんで読んだり書いたりする姿が見られるようになった。

・毎月の企画委員会での話し合いをもとに、計画的に校内研修を実施することができた。

【課題】

・学力調査から基礎学力の定着と思考力を必要とする問題や記述問題に課題が見られた。加力学習の充実や既習内容を生かした授業づくりを重視し、学力の底上げを図る必要がある。また、要点をまとめたり、条件に合わせて書いたりすることを日々の授業の中で意識的に行いながら、自分の考えを表現できる記述力をつけていく。

・児童の主体的、対話的な学びに ICT 機器を活用できるよう、授業への活用方法をさらに研修し、校内で共有できるようにする。